



毎年ハロウィンでお邪魔している老人ホーム「希望」さんから、「今年
は来られない
だろうから」
と手づくり
飾りやシー
ルをいただき
ました。ご紹介いたします。



学習発表会、修学旅行は 「どんな形でもやりたい！」と 検討の途中経過をお知らせします

思っています

「学習発表会も楽しんでいます。」という感想をいただいて大変ありがたいと思っています。今度は屋内の行事になりますのでさらに心配が増えますが、なんとかやりたいと考えています。

長時間、たくさんの人が同じ場所にいることによるリスクを避けなければいけません。

学年の子どもが約40人、おうち方が1人見に来られると40人で計80人、2人だと子どもと合わせて120人になります。これを低中高のように2学年まとめるだけで倍の人数になり、全校児童数の228人を上回る人数が一緒になることになります。見る学年を増やすたびに、多くの方が一緒にいる時間が増えてしまうことになってしまいます。校内では、・・・。

各家庭1人ずつにして他の学年の発表も見ていただくより、**自分のおうちの子の発表だけを見ていただくことにしても2名に増やした方がよいのではないか。**

会場の人数が多いとどうしても劇や歌などの声を出す発表を控えなければならなくなるが、**やりたい学年にはやらせてあげたい。**

発表は「お客様に見ていただくため」のものであると同時に、「子ども達が練習から創り上げ」たり、「発表している最中にも現在進行形で成長」したりするということなので、**大事にしたい。**

劇や合唱は、子ども同士の間隔をとって行うことはできないか？ マスクやシールドをつけてでもやりたいが・・・。

先生達で思いを出し合ったりアイデアを持ち寄りして検討しています。教務主任の七十刈先生は、体育館に椅子を置いてみては、「端まで行くと見えにくいなあ。ここまでが限界か。」とつぶやきながら椅子を数えていました。なんと工夫はしようということで、劇を行いたい学年も練習も開始しました。どのように行うか、工夫点や(またしても)お願いごとを相談し、後日ご案内をお届けします。

修学旅行も、12月まで延期しています。なんとか実施したいと考えています。体験させたい活動があります。一方でコロナ対策も必要です。どんな内容にするかに加えてどこへ行くかも、旅行業者さんにもアドバイスや情報をいただいて検討を行っています。

気になっていること コロナだけでなく

子ども達の生活ぶりが気になっています。気になっているのは、ケイタイ・スマホ・タブレット、ゲーム機などの情報端末の使用です。子ども達の会話が気になっています。

- ・「〇〇というゲーム面白いよね。」→ゲームって年齢制限があるのではなかったか？
 - ・「ゲームで、知らない人と会話しながら一緒に戦ったよ。」→何を誘われるかと危なくないのか？
- 子ども達に会話の内容に、普段の生活がすでに危険なのではないかと心配されることがあります。また、
- ・「12時まで起きていました。」
 - ・具合が悪くて保健室に行くときちまち熟睡する子(しかも、何日も続けての子が複数います)

いろいろながんばりがあって子ども達に成長が見られる中ですが、「本当に大丈夫か」と立ち止まってみなければならないこと、「みんなそうだから」と流されないようにしなければいけないことであると考えています。子ども達は、おうちでは、どのように過ごしているのでしょうか。

「もう1つの運動会」

“精一杯”の距離 ～運動会で見えた一場面～

普段車いすで生活している5年生の翔斗さんが昨年から徒競走に挑戦しています。普段から歩行訓練をして頑張っている翔斗さんの挑戦は、本人の達成感もさることながら、見る人もその努力に感動したと思います。そして今年、翔斗さんが走ることは、周りの子供達にとっては既に珍しいことではなく「当たり前」のことになっているようです。しかも、“距離”が違うのも当たり前。

人の走る距離に違いはあっても、「精一杯がんばっていること」は同じ。「“精一杯の距離”は、人によって違う」ということを子どもなりに分かっているのです。そんなことを「当たり前」に思えることが素晴らしいのだと思うのです。

そして当日、翔斗さんが何と1位をとりました。生まれて初めての1位は、ギリギリに競って来ての1位でした。翔斗さんの喜びはどんなだったことか。そして、もう1つ注目したいのは、周りの子供達でした。

1位を狙っていた子がいたに違いありません。もう少し、翔斗さんの走る距離が長かったら自分が1位だったかもしれません。ひょっとすると、4位の子も3位に入ったかもしれません。それでも、誰も不平を言いません。勝敗を受け入れ、不平どころか翔斗さんを讃えるのでした。ここにこそ、本当の素晴らしいさがあると思うのです。1位をとるのも立派。そして互いの“精一杯”を知って、互いを讃える周りの子ども立派だと思うのです。



車いすを押されて1位で凱旋する翔斗さんを笑顔で迎える友達

「勝敗を受け入れ友達を讃える」といえば、他の種目も。微妙な判定もあったかもしれませんが、それなのに、どの学年からも不平が出ません。不平どころか、感想にもあったように本当に笑顔だったのが印象的です。

むしろ、係もドキドキ、そのおうちの方も責任を果たせるかドキドキしておられたとのこと。そんな中で一生懸命やっている係のことを分かるからこそ、潔く係・審判に従うという“よさ”が現れているような気がします。一生懸命なよさ、それを知り協力するよさ、子ども達からたくさんのおよさをを見せてもらいました。



1位も2位も、…、みんな笑顔



走り終えた子ども笑顔で応援



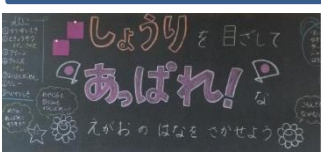
振り返ると、なんと笑顔の多い運動会だったことかと思えます。



子ども達へ「みなさんはこんなにもよい顔をしていました。それを忘れてはいけません。」

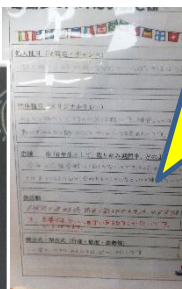
さらに、もう1つの運動会

～教室で見つけたみんなの思い～



先生からのメッセージ
子ども達はこれを読んで校庭に飛び出していったことでしょう。

いよいよ運動会本番。これまで身につけた力を発揮する絶好のチャンス。今やらずしていつやるか。自分の限界を自分で決めるな。本気で戦った者には今からな景色がある。



6年生の応援団の子の「めあてカード」
「係活動の欄」が運動会の日朝には、「本番ではせいっぱい声を出さしかないです。がんばります。」と赤ペンで書き足してあるのを見つけました。